

馬場元毅 著

絵でみる脳と神経 第4版

しくみと障害のメカニズム

森岡 周（畿央大学理学療法学）

「脳と神経のしくみは複雑である」と誰しもが思っていることでしょう。医療職に就こうとしている学生にとって、「脳と神経」に関する学習は、最も難渋する分野ではないでしょうか。しかし、馬場元毅先生による本書『絵でみる脳と神経——しくみと障害のメカニズム 第4版』は、それを見事に払拭してくれます。

本書は、「しくみと障害のメカニズム」と副題にあるように、脳と神経の構造と生理、そしてその障害のメカニズムが一冊の中で学べるところに特徴があります。解剖生理学と疾病の特徴あるいはそのメカニズムを統合し解釈していくことは、それを学ぶ学生たちにとって最も苦勞するプロセスであることを、私は長年の教員生活から知っています。特に神経解剖学、神経生理学、神経学に関する教科書が別々であることから、それらの情報を統合していくことに学生たちはとても苦勞するようです。有職者となり臨床に出ればそれらは徐々に自己の経験から統合されていきますが、まだ臨床経験のない学生にとって、解剖生理といった基礎科学と神経学といった臨床医学を結び付けていくことは、至難の技のようです。

基礎科学と臨床医学の両者がいとも簡単に融合されているところに本書の最大の特徴があります。そして、それらの情報が過不足なく、かつ平易に解説されています。よって、「スラスラ」読み進めていくことができます。神経生理学や神経学の教科書はなかなか「スラスラ」読めませんが、本書はそれを可能にしてくれます。

また、本書は「絵でみる」という表現が修飾されています。本書では、脳や身体イラストにとどまらず、文脈・シチュエーションのイラストまで展開されていることによって、初学者が実際の臨床場面をイメージしやすいよう配慮されています。そして、そのイラストは馬場先生自ら描かれたものです。

各項目の冒頭には、医学・医療に関連しない一般の方々が読んでも十分に全体像を理解できるように配慮された解説があり、看護やリハビリテーション医療にかかわるメディカルスタッフ（理学療法士、作業療法士など）ならびにその学生にとって、難解なイメージがつかまとう「脳と神経」に関して、「まずは網羅的に特徴をつかもう！」といった著者の意図をくみ取ることができます。

今回の改訂にあたり、馬場先生が最も強調されたことは、医学に関する定説が覆されれば、必ずそれを正確な情報として伝達する、という点ではないでしょうか。まさにそれは、情報を発信する者としての責務といえるでしょう。ゴールデン・スタンダード的な教科書であっても情報の更新を怠らず、それを供給し続け、存在し続けること、それこそ人類への貢献作業ということがいえます。

冒頭にも示したように、本書は「脳と神経＝難解」というイメージを払拭してくれます。ぜひとも手にとっていただき、脳と神経の「面白さ」に気付いてもらえればと思います。

（A4変型 頁264 2017年 定価：本体2,800円＋税
[ISBN978-4-260-02783-0] 医学書院刊）